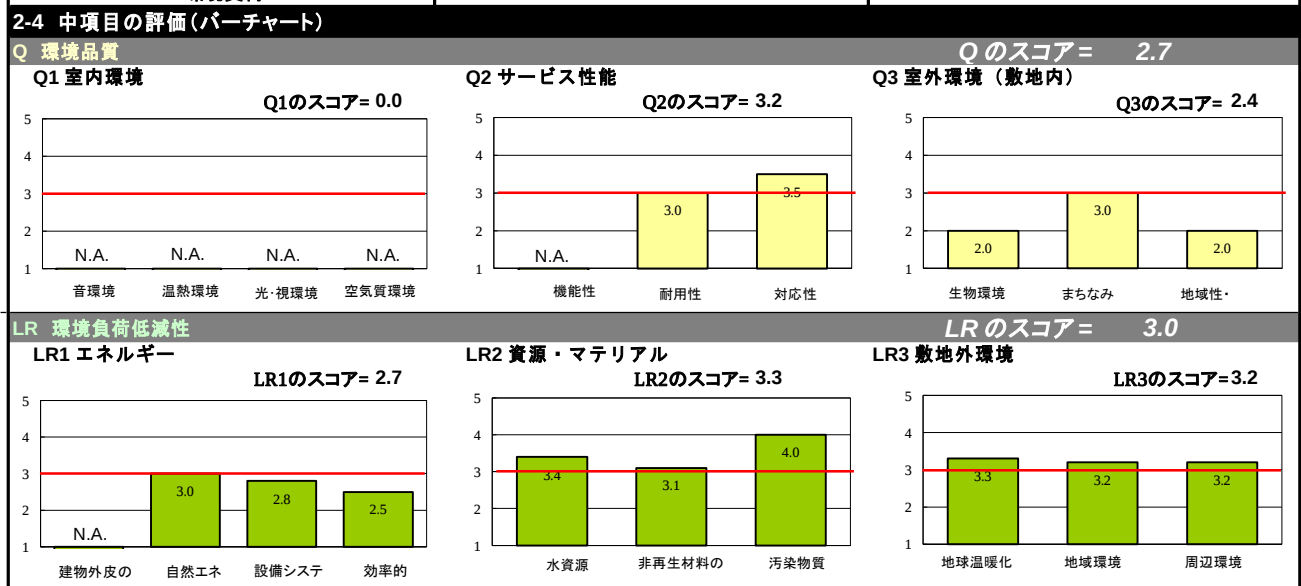
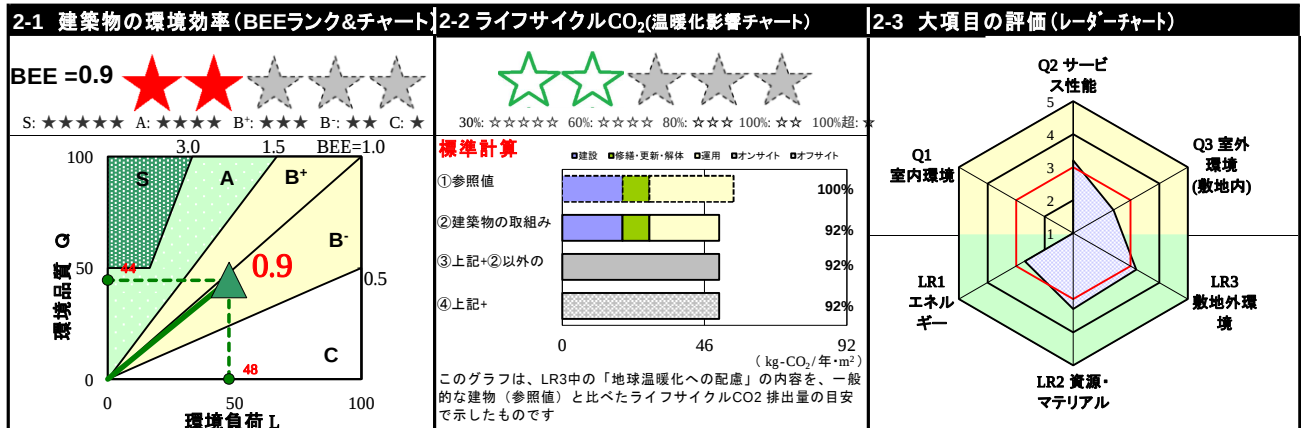
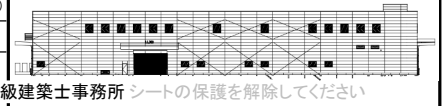


CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	木村工機株式会社八尾製作所 F棟	階数	地上2F
建設地	大阪府八尾市北久宝寺	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	30 人
地域区分	6地域	年間使用時間	4,380 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年9月 予定	評価の実施日	2025年1月10日
敷地面積	2,190 m ²	作成者	大和ハウス工業株式会社 一級建築士事務所
建築面積	1,237 m ²	確認日	2025年1月10日
延床面積	2,399 m ²	確認者	大和ハウス工業株式会社 一級建築士事務所 藤原 康行



3 設計上の配慮事項		
総合 敷地内に可能な限り緑地を配し、周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させている。		その他 特になし。
Q1 室内環境 対象外	Q2 サービス性能 ケーブルラックにより仕上材を痛めず電気配線の更新修繕可能な計画としている	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内に可能な限り緑地を配し、周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させている。
LR1 エネルギー LED照明の設置。	LR2 資源・マテリアル 節水便器 節水水栓を採用している。	LR3 敷地外環境 光害ガイドラインのチェックリストの過半を満たし広告物照明無し

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】 建物名称		木村工機株式会社八尾製作所 F棟C棟新築工事							
建設地		大阪府八尾市北久宝寺							
用途／区分		工場							
【評価結果】	CASBEE 総合評価	★ ★ ☆ ☆ ☆						B－	
①	CO2削減	🌸 🌸 🌸 🌸 🌸						3	
②	みどり・ヒート アイランド対策	🌸 🌸 🌸 🌸 🌸						2	
③	断熱性能	評価対象外						評価対象外	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル 住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分	評価対象外						評価対象外	
④	エネルギー消費性能	🌸 🌸 🌸 🌸 🌸						3	
	建築物省エネ法に基づく 省エネ性能ラベル 住宅(住棟)又は 複合建築物の住宅部分 非住宅建築物又は 複合建築物の非住宅部分	評価対象外						評価対象外	
⑤	自然エネルギー直接利用	★ ★ ☆ ☆ ☆						2	
	再生可能エネルギー	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—		—
	利用施設の導入状況	太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—		—
エネルギー消費量の報告								報告しない	
【評価項目】									
項目		評価内容					スコア	評価	
① CO2削減		CASBEE LR3 敷地外環境 1. 地球温暖化への配慮					3.3	3	
② みどり・ヒートアイランド対策									
生物環境の保全と創出		CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 1. 生物環境の保全と創出					2.0	2	
敷地内温熱環境の向上		CASBEE Q3 室外環境(敷地内) 3. 2 敷地内温熱環境の向上					2.0		
温熱環境悪化の改善		CASBEE LR3 敷地外環 2. 2 温熱環境悪化の改善					3.0		
③ 断熱性能		CASBEE LR1 エネルギー 1. 建物外皮の熱負荷抑制							
④ エネルギー消費性能		CASBEE LR1 エネルギー 3. 設備システムの効率化					2.8	3	
⑤ 自然エネルギー利用		CASBEE LR1 エネルギー 2. 自然エネルギー利用					3.0	—	
エネルギー消費の実態把握に努める		エネルギー消費量の実績を3年間報告する。					報告する 報告しない	報告しない	
その他									
先進的技術の導入		技術の名称			考慮事項				
特に配慮した事項									